

令和二年度浜頓別高校 ◇ 入学式式辞 ◇

寒暖定まらぬ日々の中にも確実に陽射しが増し、雪解けが進む春の好き日、令和二年度北海道浜頓別高等学校入学式を挙行できますことは、関係者一同、大きな喜びとするところであります。

一方、この度の新型コロナウイルス感染症のため、日本は東日本大震災以来の未曾有の国難にあります。しかし、私たち、道民は一丸となって感染予防に努め、その結果が着実にあらわれ、この入学式につながったのではないのでしょうか。

さて、生徒の皆さんは、本校の門をくぐり、ここに堂々と入場してきました。保護者のみなさんのお気持ちを考えると、どれだけ君たちの晴れ姿をご覧になりたかったか、非常に残念に感じておられるのではないのでしょうか。そのお父さん・お母さんの気持ちを感ぜながら、この入学式に臨んでください。

只今、入学を許可しました28名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。学校挙げて、皆さんを心から歓迎し、お祝いの言葉を贈ります。

本校は、地域の発展と社会に貢献する有為な人材を育成するため創設されて以来70年に及ぶ歴史と伝統をもつ学校であります。6468名に垂んとする卒業生は、本道はもとより国内外でも活躍されており、その実績から関係各位の本校教育に寄せる期待は、誠に大なるものがあります。

新入生の皆さんは、名実ともにこのような浜頓別高校の生徒として、ここに第一歩を踏み出すことになりました。自信と誇りを持ちつつも、しっかりと足元を見ながら、新しい生活に臨んで欲しいと思います。

本校教育の理念を示す「生徒指標」として、次の三点を掲げています。

1. 謙虚で思慮深き人間となれ
2. 志を立て、困難に打ち克つ人間となれ
3. 健康で、人のために尽くす人間となれ

これらのことは高校時代に限らず、長い人生における「不易なるもの」であります。その実現のため本校は、学校挙げて「高い次元での文武両道」を進めています。文学と武道、つまり勉強はもちろん部活動など特別活動にも頑張りながら人間力を培い、希望の進路を切り拓く、この文武両道の目指すところを実現させるため、新入生の皆さん一人ひとり、自分の心に誓って欲しいことを二点述べます。

一つは、「主体的に学ぶ」ということです。

高校生活の中心となるのは、教科の学習です。高校の教科は専門性が深まり、授業の密度も濃くなります。それを学ぶためには、漫然とした受け身ではなく、問題意識をもって自ら考え探究していくことが大切です。他人から与えられ他人に導かれる受け身の勉強習慣を脱却し、素朴な疑問を出発点に自ら問いかけ自ら解決する姿勢、すなわち自問自答の学習習慣を確立しましょう。

「主体的に学ぶ」とは予習・復習の家庭学習と毎時間の授業を大切にすることに他なりません。謙虚に学ぼうとする皆さんの姿勢と、真摯に語りかける本校教員の情熱とが共鳴しあってこそ、真の学力は定着すると考えます。

二つ目は、「規律正しい生活を送る」ということです。

規律、すなわち秩序やきまりは、集団生活を営む人間社会において、自由や幸せを護るため、人類が創り

でした「貴い知恵」です。規律に裏付けられてこそ社会は成り立ち、個人の幸福があり得るのです。

新型コロナウイルス感染症に関しては危機的な状況にも拘わらず、道民は結束して立ち向かっております。こうした忍耐強さと秩序だった行動にメディアからは称賛の声が寄せられています。

苦境にあっても天を恨まず、試練に耐え力を合わせる美質は、北海道民の歴史や伝統によるものというだけではなく、日頃の規律正しい生活の中で培われたものと考えます。

新入生の皆さんが、規律正しい生活をとおして、集団生活における自分の役割や責任を体得し、思いやりのある逞しい人間として成長するよう願っています。

以上述べました「主体的に学ぶ」「規律正しい生活を送る」。これらのことを継続する限り、本校は職員一丸となって皆さんの期待に応え、精一杯の支援を約束するものです。

結びになりますが、高校時代は少年期から青年期に移行する変革の年代であり、心身ともに成長・発達著しく、かつ不安定な時期でもあります。本校では保護者・学級担任等と連携をとりつつ、君たちの歩む姿をしっかりと見つめ、時には温かく励まし、時には毅然とした態度で接していきたいと考えています。

新入生の皆さんにとって、これからの三年間が、実り多いものとなることを祈念して、式辞とします。

令和2年4月8日 北海道浜頓別高等学校 第27代校長 北 村 京 一